和光中学校道徳通信　　*生徒会スローガン「自学豊心 ～前向き・励まし・思いやり～」*

和 ～心をつなぐ～

令和５年７月１４日
第 ３ 号

いのちの花

2022 年４月から 2023 年３月までの１年間で 14,457 匹の犬や猫が殺されました。人間に見放され、仕方なく殺処分される動物たち。今から 10 年ほど前のこと。青森県の高校生が始めた「命の花」の活動を通して、『命』について考えました。　　〔※ 裏面：放送内容〕

☆ １年生 ☆

○ 自分の家でも子犬を保護して育てていますが、保護した頃のある日、「そんな犬は保健所に連れて行け！」と言われたことがあります。ぼくはそれを聞いて、「人の心が無い人もいるんだな」と思いながら大切にその犬を育ててきました。この話を聞いてそのことを思い返すと、あれで一つの命を救えたのかなと思いました。

○ 人間は自分勝手で、飼えないと思ったら動物は見捨てられたりしてかわいそうだと思いました。ぼくは動物を見捨てたりせず、死ぬまで世話をしたいと思いました。今日のお話は涙が出ました。

○ ぼくは、「いのちの花」を育てるだけでなくて、できるだけたくさんの動物を殺処分にならないように救えるようになって長生きさせたい。

☆ ２年生 ☆

○ 大量の動物のほとんどが人間に見放され、仕方なく殺処分されることを知ってかわいそうだと思いました。自分たちに何かできないかと思って動物の骨を肥料にして花をつくっていたように、自分にも何かできないか考えて行動することが大事だと分かりました。

○ 殺処分される動物のことは関心のある人にしか伝わりません。ですが、花なら多くの人に伝わるかもしれないと思いました。生き物の命を最後までムダにしない考えが広まってほしいです。

☆ ３年生 ☆

○ 私は犬や猫が苦手ですが、向井さんの活動を気持ち悪いとは思いませんでした。理由もなく殺処分される犬や猫の命を花として育てた向井さんはすごいと思いました。

○ 私は４年前から３匹の猫を飼っています。野良猫だった母猫が産んだ子達です。もし私が引き取らなかったら殺処分などにされていたかと思うとゾッとします。犬も猫も無駄な命ではないです。

○ 香川県で犬猫の殺処分の数が全国でワースト２位だと今日初めて知りました。犬や猫にも一つの尊い命があるのに平気で捨てたりしていてとても残酷だと思いました。動物を飼うんだったら、責任をもって最後まで育ててほしいと思いました。

★保護者の皆様へ

お子様と意見の交流をして、ぜひ感想などを気軽にお寄せください。

切り取り線

保護者通信欄（お子様を通じて担任へお渡しください。）

2012 年春、青森県立三本木農業高校２年生だった向井愛実さんは、青森県動物愛護センターを見学しました。センターでは人間に見捨てられたり、もう飼えないと持ち込まれたりした動物たちがたくさんいました。「キャンキャン！」と泣き叫ぶ動物たち。まるで助けを求めているようです。なかには引き取られる動物もいますが、その多くは殺され、骨は袋に詰められゴミとして処分されることをしりました。

向井さんは動物科学科の愛玩動物研究室というコースで、ペットについて学んでいました。小さなころから動物が大好きで、将来はトリマーになるのが夢です。それだけに、動物が日々殺され、その骨が捨てられていることにショックを受けました。学校にもどり、放課後の何気ない会話の中で、自分たちも何かできないかと話をし、担任の先生にも相談したところ、骨が肥料になることを知りました。そこで思いついたのが、骨を混ぜた土で花を育てる「命の花」でした。

動物愛護センターに相談し、ゴミとして捨てられていた骨を引き取ることにしました。ただ、土に混ぜるには細かく砕き、ふるいにかける必要があります。れんがを使って骨を砕きます。中からは首輪の金具や、動物の毛なども出てきました。思わず涙があふれ出しました。手に伝わる振動からは、動物たちの「もっと生きたかった」という思いが伝わってきました。

「せめて花としてもう一度育ってほしい。殺処分される犬や猫がいること、命の大切さを伝えたい。」やがて花が咲くと、動物が好きな人からは受け入れられたものの、苦手な人からは「気持ち悪い」「かえってかわいそう」などの否定的な声も聞かれました。でも、向井さんは「動物が嫌いな人がいるのは仕方ないこと。好きか嫌いかにかかわらず、命の大切さは訴えるべきだ」と活動を続けました。

向井さんの卒業後も、この活動は続けられ、少しずつ広がっていきました。後輩達はさらに議論を深め、今、自分たちよりも若い年齢に伝える必要を感じ始めています。今年は中学校の道徳の授業で『出前授業』を始めたほか、紙芝居もつくって、さらに低い年齢の子どもたちにも訴える活動を続けています。動物たちの命でつくった土を入れる「鉢上げ体験」に小さな子どもたちを招き、一緒に作業をすることで命の尊さを伝えています。

☆ 保護者の方からの感想 ☆　　６月 「日本人としての誇り」

- 本題のような「良心の好循環」を今一度取り戻し、後生へ引き継いでいきたいものです。
- 日本人の誇れる道徳を重んじる心も、昔の日本人がさまざまなことを経験し大切にしてきたもので継承され続けてきた素晴らしいものです。その誇れるものを次世代へ繋げて継承していってほしいです。
- 先日のＷＢＣ野球世界大会では、日本人の礼儀正しさや感謝の気持ちを常に忘れない心が世界中のメディアを賑わせました。自己中心的にならず、常に相手の気持ちを考え尊敬されるＷＢＣの選手のように成長してほしいです。
- 東日本大震災で日常が突如として奪われ、明日への不安ばかりが押し寄せてくる現実を目の前にしても、親切心を捨てずに共に助け合うことができる日本人の姿は本当に誇らしいと思いました。
- 23 億円もの大金、想像もつきませんが、自分も困っているはずなのに決して他人のものには手を付けようとしない！　まさしく日本人の誇りだと思います。

（紙面の都合上、感想の一部のみ掲載しています。ご了承ください。）